

塩絵を描いてみよう



去る4月30日(日)午後1時半～徳成寺において、「塩絵を描いてみよう」が開かれました。一般的に馴染みのない塩絵ですが、すぐに定員いっぱいになったのには驚きました。この度、参加者の皆さんに取り組んで頂いたのは、こちらのような蓮の花です。



泥の中でも元気よく花を咲かせる上に、仏様の極楽浄土に咲く花とされていることから題材になりました。

この蓮の花の「塩絵」を教えて下さったのは、今年の2月号のかわら版・今月の寺ともさんのコーナーで掲載させて頂いた泉和美さんです。右の写真のように、参加者一人一人に丁寧に描いたハガキ大の下絵をご用意下さいました。

ちょうどいい機会なので、今は亡き泉さんのお母様の「小さな小さな個展」として、水彩画の作品をご覧のように展示して下さいました。泉さんの絵心はやはりお母さん譲りだったようです。さあ、これから塩絵に取り掛かりますよ。あらかじめ用意して



下さっていた塩絵の具。

参加者の誰もが生まれて初めて体験する絵の具です。塩と絵の具を混ぜてマヨネーズ状になったものをのせていくというのが塩絵の一番的確な表現になります。この絵の具のいいところは、はみ出してもすぐに取り除き、のせ直せるところや、どんな色使いをしようとも失敗するという概念そのものがないところです。10人の参加者がいれば、文字通り十人十色の作品が仕上がり、どの作品も甲乙つけがたい出来栄になるから不思議です。ドライヤーで塩絵の具を乾かしたら完成です。どの作品もお見事です。

